

## 個人山行

## 甲武信ヶ岳・乾徳山・大菩薩峠

平成 28 年 5 月 5 日（木）～8 日（日）

鳴原、右田(記録)

5 日(木)14 時前に鳴原車で大阪を出発。3 連休の最終日で U ターンラッシュが心配されたが、尾張一宮の手前で渋滞にあった以外は、スムーズに走行できた。甲府昭和 IC で高速を降り、甲武信ヶ岳の登山口にある道の駅みとみまで行き、駐車場の端の緑地帯にテントを設営。夕食は、水炊き鍋。湯豆腐が旨い。酒も進み、ほろ酔い気分で 23 時頃？就寝。

6 日(金)西沢溪谷の駐車場に移動し、6 時に出発。薄曇りのなか、西沢溪谷の入り口に向けて遊歩道を歩く。やがて右側に甲武信ヶ岳登山道の一つである近丸新道入口の標識が出てくる。途中まで 2 本の登山道があるが、近丸新道を登り、徳ちゃん新道を下りに使うことにする。谷沿いを進むと堰堤が現れ、沢を渡渉する。1 時間 30 分ほどの急な登りとなり、徳ちゃん新道との合流点。ここから尾根通しとなり、シャクナゲが出てくるが、標高が高いので、まだ蕾が膨らみかけた状態。西破風山からのルートと合流する地点ぐらいから雪が現れる。踏み固められ凍結していて歩きづらい。甲武信ヶ岳手前のピークである木賊山（「とくさやま」と読む。現地ではかろうじて覚えていたが、この記録を書く時点ではやはり忘れていた。）を越え、10 分ほど下ると鞍部に甲武信小屋がある。この時も営業しており小屋の女性が薪を運んでいた。小屋から 15 分ほど登り本日の目的地である甲武信ヶ岳 2,475m に到着。当初の予定では時間があれば埼玉最高峰の三宝山 2,483m に足を延ばす予定であったが、甲武信の頂上からみると樹林帯で展望もなさそうだったので止めにした。（本当は標高差 1,400m の登りで余裕がなかった？）頂上で一緒になった方に記念撮影してもらおう。

「今日は、年寄りは一人もおらんかったなあ。僕らだけですね。」と会話を交わすぐらい、若い人が多く、どこでも遭遇する高齢者団体とは一度も会わなかった。再び木賊山を登り返し、下山する。分岐で徳ちゃん新道に入ると、シャクナゲが三分から五分咲きといったところできれいに咲いている。写真を撮りながら下り、嫌になり始めたころ遊歩道沿いにある西沢山荘に到着。駐車場に戻り、明日登る乾徳山の登山口の下見に行く。テントが張れる場所があるかと思っていたが、良さそうな場所が見当たらないのと雨がぱらついてきたので、テント場を探しながら塩山まで今夜の食料を買い出しに行く。買い出しの帰りに通りがかった

ダムサイトの公園に絶好の宿を発見。屋根付き、床あり、板壁付きで少々の雨ではびくともしない快適な場所（いわゆる東屋）である。雨が降っているが何の心配もなく、ビールのあと勝沼ワイン、焼酎をいただき、すっかり上機嫌。山行の疲れもあり、締め用に用意していた鯖寿司も食せずに寝てしまい目が覚めたら朝だった。

駐車場 6:00→6:20 近丸新道入口→8:15 徳ちゃん新道合流点→10:10 木賊山→11:00 甲武信ヶ岳→13:20 合流点→15:00 駐車場





7日(土)前夜の雨もあがり、晴れ間も見えだす。6時過ぎに出発し、乾徳山登山口の駐車場に向かう。最奥の駐車場に一番乗り。標高 988mの登山道入口まで林道を歩く。山道に入るとさわやかな樹林帯と広々とした登山道で快適だ。途中、銀晶水・錦晶水という水場があり、喉を潤す。特に錦晶水のあたりは平坦で幕営するには快適そうだ。国師ヶ原の四辻から月見岩を目指して登る。月見岩周辺は展望がよく、気持ちのよいところだ。月見岩を過ぎると岩場が多くなり、3か所ほど鎖場のある核心部があり、特に頂上直下の岩場は鎖をたよりにしないと登れない。(登れないこともないだろうが、この山の岩質はすべりやすく前日の雨もあり、慎重にならざるを得ない) この岩場を登りきると 2,031m の乾徳山頂上。狭い岩場だが 360 度の展望。富士山も望めるが、この日は少し霞んでいる。下りは別ルートを取ったが、道が悪く、特に魅力的でもないの、登ってきた道を引き返す方が良かったと感じた。国師ヶ原にある高原ヒュッテまで下ると大学生と思われる男女数人が撮影をしている。よくみると鹿の群れと一緒に記念撮影しているのだった。

それほどこの鹿は人馴れしている。四辻からは、登りと違うコースで道満尾根を下る。特筆すべきこともなくひたすら下る。途中、足を痛めた二人の男性を追い抜く。徳和峠に降り立ち、集落の道をたどり、駐車場へ着く。登山靴を脱ぎ、近くの笛吹の湯で汗を



流す。ここは公営の風呂で JAF 会員割引もある。泉質もよく、露天風呂の程よい温度の湯に浸かっていると寝てしまいそう。さっぱりしたあと、昨日の塩山のスーパーで買い出しし、明日の大菩薩嶺登山のため上日川峠を目指す。標高 1,600mまで一気に登る。峠の駐車場の端にテントを設営。風呂上りのビールで乾杯し、あとは、いつもどおりの宴会。夜中に鹿に起こされた以外はぐっすり。





駐車場 7:00→7:20 登山道入口→8:40 四辻→10:20 乾徳山 11:00→12:45 四辻→道満山→14:10 駐車場

8日(日)最終日は明日からの仕事の関係もあり、早々に登り帰路に着く予定で行動する。ゆっくり登っても4時間程度のコースだ。今日は、今回でもっとも天気がいい。早朝であれば富士山もきれいに見えるだろうと期待する。ロッジ長兵衛から福ちゃん荘まで樹林帯の道をゆるやかに登って行く。福ちゃん荘からは大菩薩峠を目指す。大半の人は唐松尾根を登り大菩薩嶺を目指すようだ。大菩薩峠は見晴らしがよく、富士山が美しい。中里介山の小説で有名な山だが読んだことはない。大菩薩峠から大菩薩嶺までの尾根は富士山展望コースだ。この尾根がこの山のメインで、雷岩を過ぎて展望のない大菩薩嶺の頂上は、ピークハントに興味のない者からは見捨てられた感がある。一方の雷岩は大菩薩嶺の頂上と見紛う人ばかりである。下りは唐松尾根を取る。たくさんの登山者が登ってきて挨拶を交わすのも煩わしいほど。まだ8時台なので仕方がない。福ちゃん荘に戻り、一気にロッジ長兵衛まで下る。駐車場は満車状態である。山道具を片付け、帰路に着く。連休最終日だが、高速道は前後に車の姿が見えないほど。普段より空いているのではないかと感じる。順調に走り、16時頃帰り着く。天候にも恵まれ、楽しい山行となった。100名山だけがよい山とは限らない。好みもあるだろうが、今回の乾徳山は100名山に匹敵する魅力的な山だった。嶋原さんには、往復の長時間の運転お疲れ様でした。ありがとうございました。

ロッジ長兵衛 5:45→6:10 福ちゃん荘→6:55 大菩薩峠→7:50 大菩薩嶺→9:00 福ちゃん荘→9:15 ロッジ長兵衛



